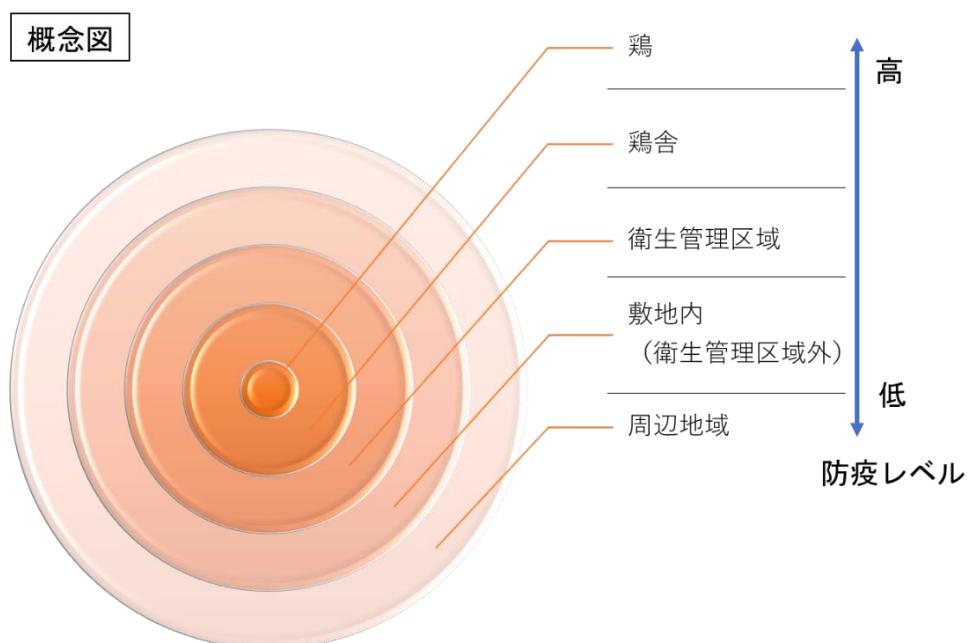


執筆担当	所在地	畜種	キーワード
兵庫牧場 業務課	兵庫県 たつの市	肉用鶏	高病原性鳥インフルエンザ、 野生鳥獣対策、ため池

兵庫牧場における野生鳥獣対策について

国産肉用鶏種(日本で育種改良した肉用鶏)を繋養する家畜改良センター兵庫牧場では、鶏を健康に飼育するため様々な対策を実施しています。前回は対策の一つである鶏舎の消毒について紹介しましたが、今回は鶏舎の外の対策について紹介します。

鶏の感染症には、鶏に常在している病原体が原因となる内因性感染症（日和見感染症とも言います）と、あらたに病原体が侵入することで発症する外因性感染症（急性感染症の起因菌の多く）があります。内因性感染症の予防には鶏の免疫力、鶏舎の消毒が重要ですが、外因性感染症の予防には、それらに加えて、病原体を牧場の外から牧場の中に、そして鶏舎の中に入れない対策を講じる必要があります。



牧場の外から侵入してくる恐れのある病原体のうち、兵庫牧場を含む養鶏関係者にとって、非常に重要なのが高病原性鳥インフルエンザです。秋から冬に日本に渡来する渡り鳥（特に水鳥）によって海外から日本に運び込まれるウイルスが、兵庫牧場に侵入しないよう多くの対策を積み重ねています。そのため、

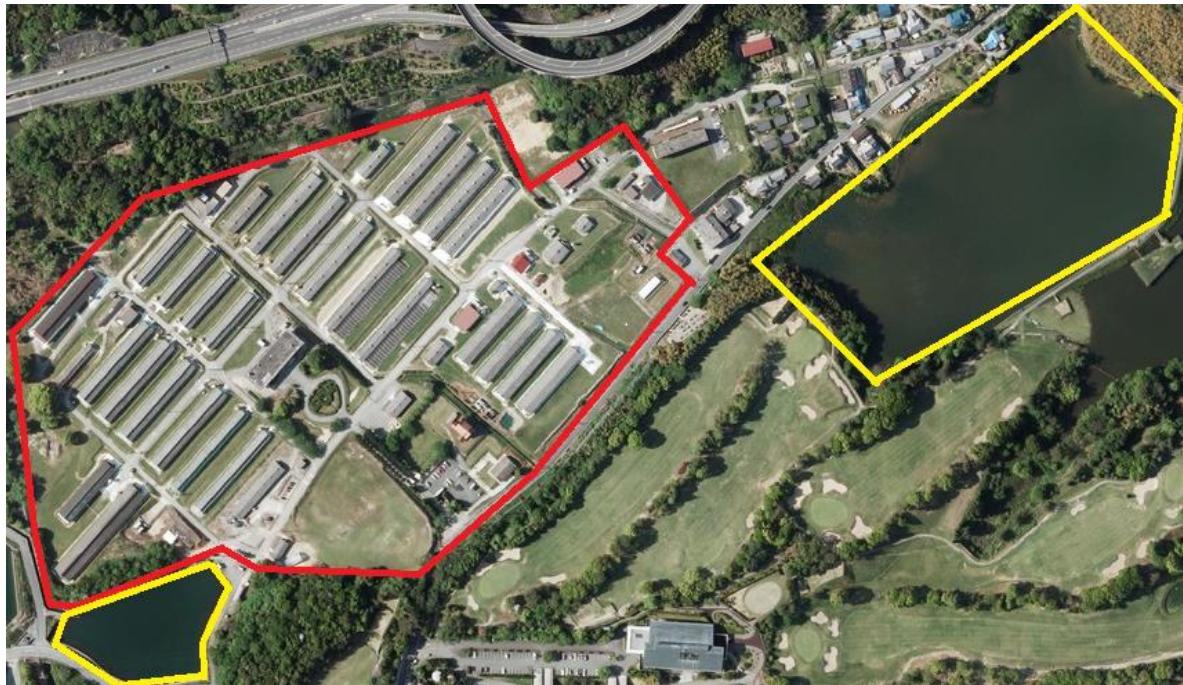
- ① 渡り鳥等の野鳥を農場に近づけない対策
- ② 野生動物が農場内に入らないようにする対策

（野生動物は、ウイルスを持った渡り鳥等の野鳥の死体をついばむ等をしてから農場内に入ることにより、ウイルスを持ち込む可能性があります。）

- ③ 入ってしまった病原体（糞や羽、死体など）を消毒する対策
- が必要です。今回は兵庫牧場が実施している①の渡り鳥対策についてご紹介します。

兵庫牧場がある瀬戸内地方は降水量が少なく、農業用水を確保するため歴史的に多くのため池が存在します。牧場の近隣にも、農業用のため池が複数存在し、水鳥の飛来地や休息地にならないよう対策を講じる必要があります(写真1)。兵庫牧場に隣接している池(夫婦池と大陣原下池)の対策を紹介します。

写真1 兵庫牧場全景（赤線）と周辺のため池（黄色線）



出典：国土地理院ウェブサイト航空写真に線を追記

【夫婦池の対応】

夫婦池（写真1右上）は、管理組合（農会）が毎年10月から2月にかけて池の点検、補修を目的とした水抜きを行っています（写真2）。池に水がない状況であれば、水鳥の休息地になりにくくなります。管理組合と毎年調整しながら、水抜きが行われる中で、水鳥の飛来状況について、現場で確認しています。

写真2（水抜き）

① 水抜き前：数十羽飛来していました ②水抜き後：鳥がいなくなりました



【大陣原下池の対応】

大陣原下池（写真1左下）では、夫婦池のように水を抜くことがなく、夫婦池と比較して小さい池であることから、テグスを張った対策を行っています。大陣原下池の管理組合にご理解をいただき、テグスを張らせていただいている（写真3）。テグスは、手作業で対岸まで運び、フェンス等に固定します。フェンスがない箇所については、草刈りを行った上でペグで地面に固定します。

写真3（テグス張り）

①フェンス間にテグスを渡します



②フェンスに結びます



③長距離区間では、ラジコンボートにテグスを結び、対岸に渡します



④繰り返しテグスを張り、完成しました。



テグスの効果として、水鳥が着水しようとする時や、人に驚いて飛び立つ時に、鳥がテグスを邪魔そうにする様子を確認することができました。

一方で、それでも水鳥が飛来してしまう場合があります。その際は、ラジコンボートによる追い払い（写真4）やレーザーポインターによる忌避対策など、この池が不便・不快な場所だと鳥に思わせる取り組みも行っています。

写真4（ラジコンボートによる追い払い）

①水鳥が飛来してきました



②ラジコンボートを動かします



③水鳥は別な場所を求めて飛び去ります



テグス張りの大変なところは、テグスを張るための時間と労力が必要となることです。テグスは劣化も進むため、毎年水鳥の飛来する前（秋前）に劣化等の状況を見ながら張り直しをします。また、突風などの予期せぬ出来事によりテグスが切断されてしまうことがあるので、日ごろから確認することも重要となります。

以上のように、兵庫牧場における野鳥を農場に近づけない対策についてご紹介しましたが、ため池によっては水抜きもテグス張りもラジコンボートによる追い払いも困難な場合があり、同じような対策が必ずしもできるわけではありません。当場においては、管理組合のご理解・ご協力を得た中での事例としてご紹介させていただきました。養鶏農場においては、知恵と工夫で水鳥が近づかないように対策を考えていくことが重要ですので、近隣の方々との連携を一度考えてみることも有効な対策につながる可能性があるかもしれません。引き続き、当場においても最適な対策を考えていきます。